

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
東京農工大学

目 次

資料 2-2-1	「興味と経験から学びを進化する基礎教育（SEED）」について ..	1
資料 3-1-1	全学共通教育機構の設置について	2
資料 3-3-3	大学間連携による共同専攻の設置について	3
資料 3-3-4	「多地点制御遠隔講義システム」による合同授業の実施	4
資料 3-3-5	「学科横断型パッケージ・プログラム」合同の実施	5
資料 4-1-1	「アグロイノベーション高度人材養成センター」の設置	6
資料 4-1-10	福利厚生設備（学生寮）の整備	7

【資料 2-2-1】（〔教育〕：中項目 2 計画 2-1 で引用）

◎「興味と経験から学びを進化する基礎教育（SEED）」について



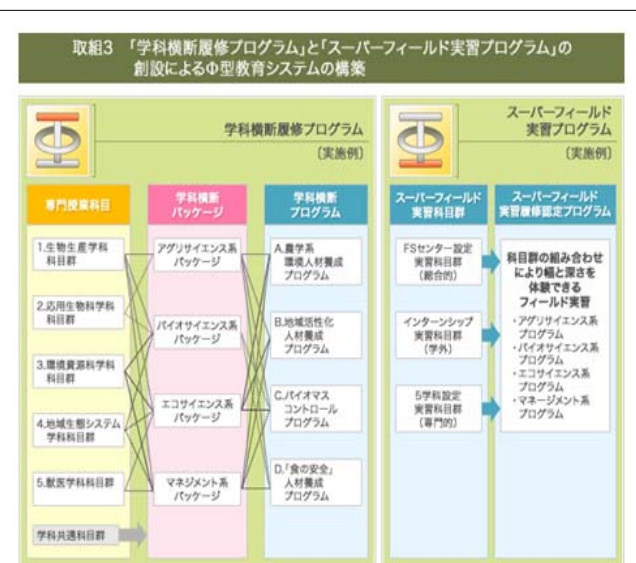
（出典：平成 22 年 2 月 8 日開催、第 21-9 大学戦略会議配付資料）

◎「学科横断Φ型パッケージ・プログラム」について

【目的】従来とは異なる履修課程の設計方法（パッケージ・プログラム教育システム）により、教員組織と履修課程の分離を合理的に行い、学生自身が自らのカリキュラム設計に参画し、PDCAによって教育の質を不断に向上させることのできる教育システムを学士教育課程において実現する。これにより、学びの幅と深さを實現する農学部パッケージ・プログラム教育システムを構築する。

【取り組み III】学部共通履修プログラム・フィールド実習プログラムの設置によるΦ型教育システム構築

地域生態システム学科における先行実施の実績を活かし、そのコンセプトを農学部全学科に拡充する。すなわち、社会ニーズに対応した4履修プログラム（環境教育、地域活性化、バイオマスコントロール、食の安全管理）（案）を農学部5学科の共同運営として平成22年度カリキュラム改訂に合わせて発足させるとともに、スーパーフィールド実習プログラム（“雲と自由の”フィールド実習）を設置し、農学部学士教育の普遍的基盤である“農場実習などの現場体験による学びの動機付け”を体系的に強化したΦ型教育システムを農学部における学科横断型教育システムとして立ち上げる。実施後は、FDと評価に基づき、節目で履修プログラムの組換えや改訂を行い、PDCAサイクルに沿った教育課程を農学部全体で完成する。



（出典：本学関連 Web サイト）

◎「SAILプロジェクト」について

○SAILプロジェクトの目的

大学入学時の暗記型学習から、大学院での解決型の実践へ速やかに移行するための教育システムの構築が求められる中、はじめから解決型の資質を持っている高校生を積極的に受け入れる特別コースへのニーズが高まっています。本プロジェクトは、潜在能力のある理数高校生に対して、「既成の枠にとどまらず、自ら異分野を統合発展させ、新しい分野を開拓する能力」を養成し、研究者としてだけでなく、革新的職業人として産業界にも囑望される人材を育成することを目的とします。学部入学から大学院進学までの課程で、科学者・技術者としての船出(SAIL)に必要な4つの能力、(1)学習力(Study)、(2)分析力(Analysis)、(3)企画設計力(Innovative Design)、(4)論理的発信力(Logical Presentation)を発達段階として設定し、学士課程1～3年にそれらの能力を養成するSAILコースを配置します。

本学では、これまで、特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)「興味と経験から学びを進化する基礎教育-SEED-」で、主に大学初年次で体験型の基礎教育を導入し、SAILコースにおける初期の学習力(Study)から分析力(Analysis)養成を効果的に進めてきました。また、大学院教育改革支援プログラム「科学立国人材育成プログラム」で、M2からD3までの4年間一貫教育を行い、SAILコースを修了した学生が高度科学技術人材として飛躍するための施策を進めてきました。本プロジェクトは、学部入学から大学院進学までの統一的な教育システムにおける学士専門課程の骨格をなす、重要な事業です。

（出典：本学関連 Web サイト）



【資料 3-1-1】（〔教育〕：中項目 3 計画 1－1 で引用）

◎全学共通教育機構の設置について

平成22年度全学共通教育の特徴

- I 大学導入科目（基礎ゼミ、工学基礎実験）
- II 持続可能な地球のための科学技術
- III 人文社会科目群の再編成
- IV 英語における能力別クラス編成の試行
- V 自然科学系基礎科目の構築：
 - TATI: 農工大生が身につけておくべき大学レベルの自然科学
 - TATII: 専門に必要であるが、共通的な基礎科目
- VI 実施体制の確立：全学共通教育機構

全学共通教育の実施体制



科目長・副科目長と責任学部等

科目群	科目長(責任学部等)	副科目長
1) 大学導入科目	農学部教育委員会委員長 工学部教育委員会委員長	
2) 持続可能な地球のための科学技術	農学部教育委員会委員長 工学部教育委員会委員長	
3) 共生人文社会科学	農学部	農学部教育委員会副委員長 工学部教育委員会副委員長
4) 英語	工学部	農学部教育委員会副委員長 工学部教育委員会副委員長
5) 第2外国語	工学部	農学部教育委員会副委員長 工学部教育委員会副委員長
6) 国際コミュニケーション演習	国際センター	国際センター 農学部教育委員会副委員長 工学部教育委員会副委員長
8) 日本語・日本事情		
7) スポーツ・健康科学	農学部(隔年担当)	工学部(隔年担当)
9) 数学	工学部	農学部
10) 物理学	工学部	農学部
11) 化学	農学部(隔年担当)	工学部(隔年担当)
12) 生物学	農学部	工学部
13) 地学	農学部	工学部

(出典：平成 21 年 7 月 21 日開催、第 21-4 回教育研究評議会配付資料)

【資料 3-3-3】（〔教育〕：中項目 3 計画 3-3 で引用）

◎大学間連携による共同専攻の設置について

○「大学間交流に関する包括協定書」の締結について



6月24日(火)、リーガロイヤルホテル東京において、早稲田大学との共同大学院の設置構想の発表と包括協定書の締結が行われました。

(出典：平成20年 7 月 15 日付け、本学学報)

○「共同先進健康科学専攻」の設置について



わが国初の国私連携型の共同大学院の新設

開設大学：国立大学法人東京農工大学、学校法人早稲田大学

設置する：東京農工大学：大学院生物システム応用科学府
研究科等 早稲田大学：理工学術院 先進理工学研究科

専攻名称：共同先進健康科学専攻

課 程：博士課程（後期3年の課程）

取得学位：博士（生命科学）

学問分野：理学、工学、農学の融合分野

学問領域：先進健康科学（生命科学、食科学、環境科学）

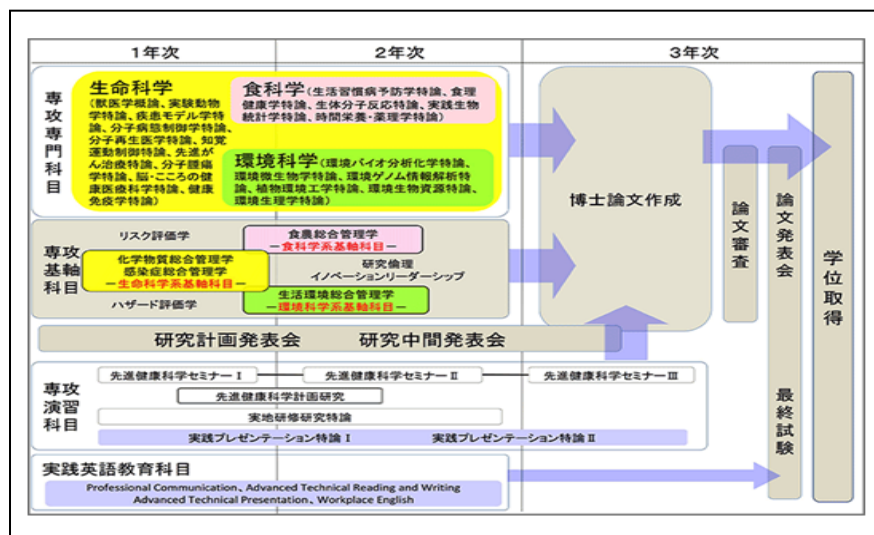
入学定員：10名（収容定員：30名）

設置届出：届出済み



(出典：平成 21 年 10 月 29 日付け、本学学報)

○ カリキュラムの編成について



(出典：本学関連 Web サイト)

【資料 3-3-4】〔教育〕：中項目 3 計画 3－4 で引用)

◎「多地点制御遠隔講義システム」による合同授業の実施

○ 連合農学研究科合同授業科目『総合農学概論Ⅰ（日本語）』〔シラバス抜粋〕

→ 平成 21 年度受講者数：52 名（※ 茨城大学・宇都宮大学の学生を含む）

総合農学概論Ⅰ（日本語） Comprehensive Agricultural Science I (in Japanese)

時間割コード (Code) 96001

(中略)

講義概要

連合農学研究科を構成する各専攻をまたがる広範な農学領域に関して、その研究とその応用に関する講義を、オムニバス方式で開講します。講義は日本語で行われます。講義時間は 1 講義 90 分で、3 日間の集中講義形式で 12 講義が開講されます。履修登録は、受講する年の 5 月に行ってください。

遠隔講義で、連合農学研究科の構成大学（茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学）において同時に開講されます。講義ごとに「出席票・レポート用紙」を配布するので、講義終了後 1 週間以内に、各構成大学担当係へ提出してください。出席状況及びレポート提出により成績が評価されます。なお、10 分以上遅刻した者には出席表を配布しません。

5 講義以上受講しないと単位が取得できないので注意してください。後期に行われる概論Ⅱや次の期の概論Ⅰで受けた講義は合算することができません。つまり、その期のうちに 5 講義以上の受講が必要です。

各講義の題目、講師等については、5 月に配付する開講予定表で通知します。受講届も 5 月に配布するので、12 講義の中から、どの講義を受講するか選択して受講届に記入し、指定された期日までに連合農学研究科の学生係に提出してください。

○ 連合農学研究科合同授業科目『総合農学概論Ⅱ（英語）』〔シラバス抜粋〕

→ 平成 21 年度受講者数：26 名（※ 茨城大学・宇都宮大学の学生を含む）

総合農学概論Ⅱ（英語） Comprehensive Agricultural Science II (in English)

時間割コード (Code) 96002

(中略)

講義概要

連合農学研究科を構成する各専攻をまたがる広範な農学領域に関して、その研究とその応用に関する講義を、オムニバス方式で開講します。講義は英語で行われます。講義時間は 1 講義 90 分で、3 日間の集中講義形式で 12 講義が開講されます。履修登録は、受講する年の 10 月に行ってください。

遠隔講義で、連合農学研究科の構成大学（茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学）において同時に開講されます。

講義ごとに「出席票・レポート用紙」を配布するので、講義終了後 1 週間以内に、各構成大学担当係へ提出してください。出席状況及びレポート提出により成績が評価されます。なお、10 分以上遅刻した者には出席表を配布しません。

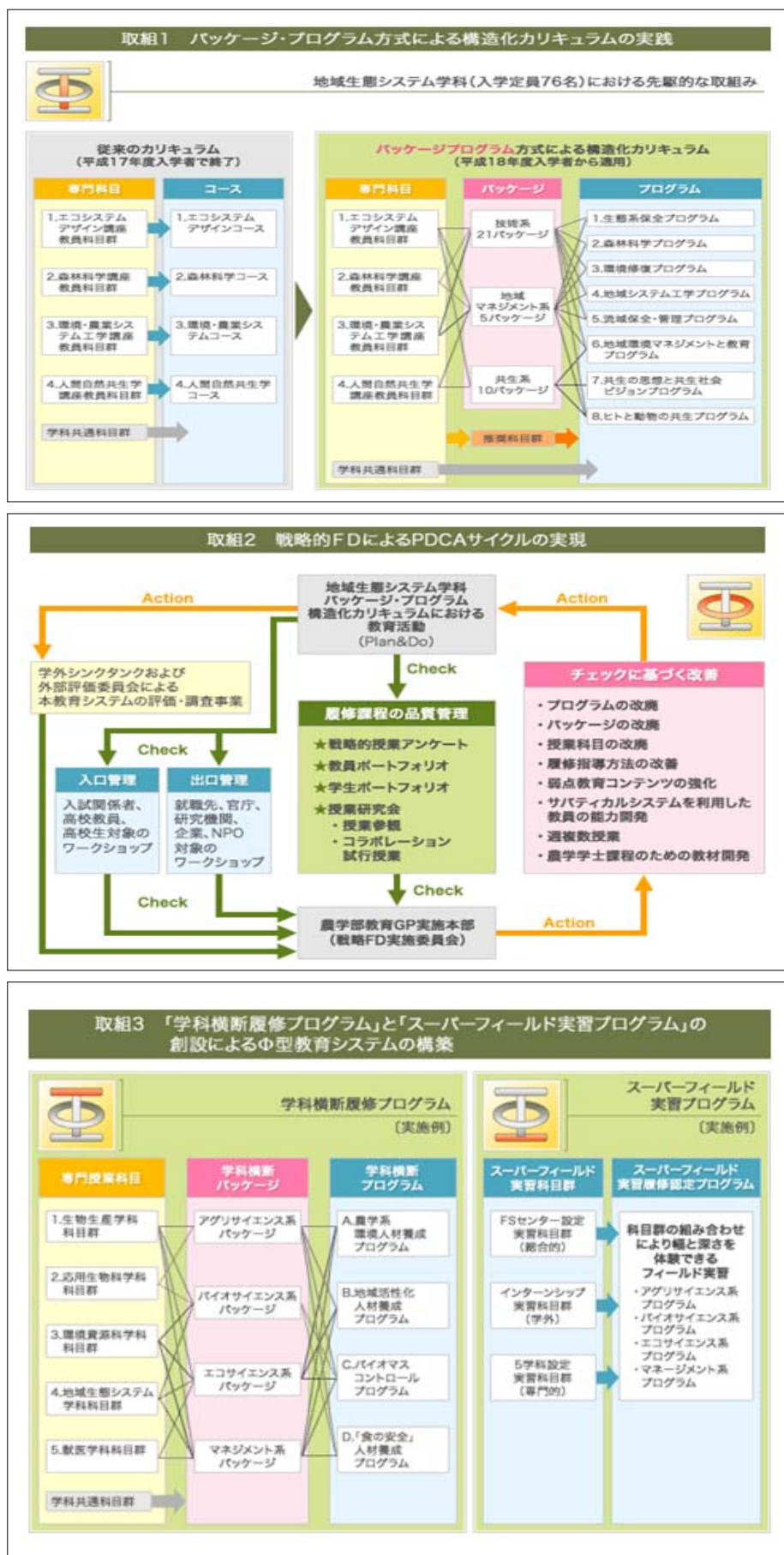
5 講義以上受講しないと単位が取得できないので注意してください。前期に行われる概論Ⅱや次の期の概論Ⅰで受けた講義は合算することができません。つまり、その期のうちに 5 講義以上の受講が必要です。

各講義の題目、講師等については、10 月に配付する開講予定表で通知します。受講届も 10 月に配布するので、12 講義の中から、どの講義を受講するか選択して受講届に記入し、指定された期日までに連合農学研究科の学生係に提出してください。

(出典：本学連合農学研究科 履修案内と科目概要)

【資料 3-3-5】（〔教育〕：中項目 3 計画 3－5 で引用）

◎「学科横断Φ型パッケージ・プログラム」の実施



(出典：本学関連 Web サイト)

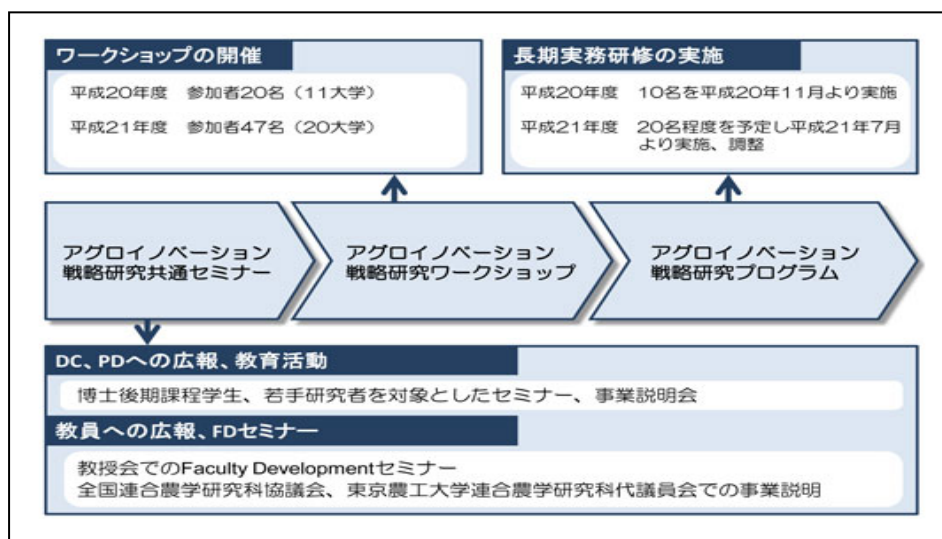
【資料 4-1-1】（〔教育〕：中項目 4 計画 1－1 で引用）

◎「アグロイノベーション高度人材養成センター」の設置

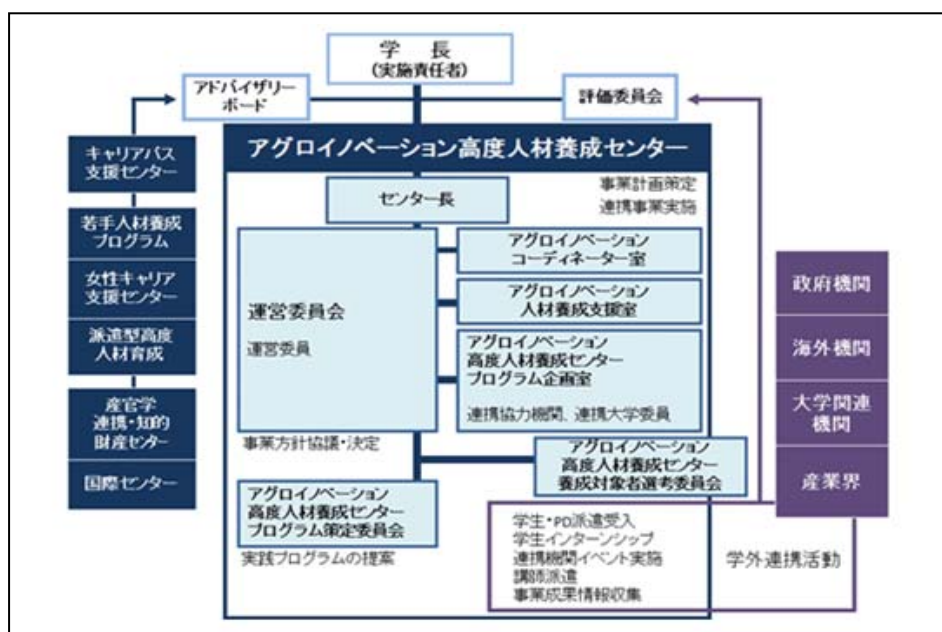


本事業は、全国の博士課程の学生、若手研究者等を支援対象者として、実践的な研修機会を付与することによって、イノベーション創出へ向けたさらなる意欲の醸成と高度な実現力を養成している。特に農学との関連性が高い、食糧、水資源、環境、人口、感染症対策など、21世紀の諸問題にかかわる技術革新、産業創出、社会政策提言ができる、優れた「アグロイノベーション人材」を産業界に輩出していくことを重要な使命と考えている。

◎事業概要



◎運営体制



【資料 4-1-10】（〔教育〕：中項目 4 計画 1－10 で引用）

◎福利厚生設備（学生寮）の整備

東京農工大学学生寮案内

本学の学生寮は、「本学の厚生施設として学生に良好な居住及び勉学的环境を提供するとともに、共同生活を通じて充実した学生生活に資することを目的」として、昭和 41 年～42 年に小金井キャンパス隣接地に樺寮 1 棟～3 棟、昭和 47 年に樺寮 0 棟（現桜寮）が、昭和 61 年に府中キャンパス隣接地に楓寮（女子寮）が、設置されました。樺寮は、築後 40 数年が経過し老朽化が進み、平成 19 年 9 月に新規入寮募集停止を経て、全面改修し、新たな学生寮として、平成 22 年 3 月に完成する予定です。

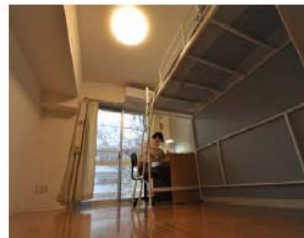
これにより、200 室からなる樺寮（男子寮）と 18 室からなる桜寮（女子寮）が誕生します。

皆さんの入寮をお待ちしております。

【入寮対象】本学学生（外国人留学生は除く。）で、経済的困窮度が高く、かつ遠隔地（自宅（実家）から 2 時間以上）のため通学が困難な者を対象とします。

【入寮選考】入寮願いに基づき、別に定める選考基準に基づき選考し、委員会の議を経て副学長が許可します。

男子寮（樺寮）



（居室の様子）



（樺寮・桜寮のコインランドリーの様子）

女子寮（桜寮）



（出典：平成 21 年度本学学生寮案内）